

平成 28 年度 第 3 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 12 月 1 日（木） 午後 7 時から 8 時

【会 場】消防署 3 階 講堂

【出席者】■委員；出席者 14 人

- ・ 稲城市自治会連合会（榎本 勝美氏）
- ・ 稲城市商工会（奈良部 義彦氏）
- ・ 稲城市消防団（城所 達也氏）
- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 教育関係及び稲城市三曲協会（栗井 洋子氏）
- ・ 稲城市芸術文化団体連合会（安東 道正氏）
- ・ 稲城市立学校 PTA 連合会（高橋 やよい氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 国際ソロプチミスト稲城（砂塚 有子氏）
- ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）
- ・ 公募市民（原 忠男氏）
- ・ 公募市民（小山 良夫氏）

<欠席>稲城市農業委員会（松本 一宏氏）、東京稲城ロータリークラブ（川島 保之氏）、
稲城青年会議所（石井 秀樹氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉））

【開会】

委員 長：本日はお忙しい中、また、夜分遅くにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、平成 28 年度第 3 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議を開催いたします。

まず、事務局より、配布資料の確認をお願いします。

井田 係 長：まず、本日ご欠席等のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。稲城市農業委員会の松本委員からご欠席のご連絡をいただいております。また、東京稲城ロータリークラブの川島委員からはご到着が遅れるとのご連絡をいただいております。稲城青年会議所の石井委員につきましては、ご出欠について現在電話で確認をしております。〔その後、川島委員、石井委員からご欠席のご連絡をいただく。〕

以上、ご欠席等が 3 名、ご出席いただいている委員の方は 14 名になりますので、稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱の規定により、過半数の委員の出席がございましたの

で、この会が成立していることをご報告いたします。

それでは、改めまして、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは、8点になります。

①座席表

②次第

③資料1：平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 名簿

④資料2：平成28年度第2回海外姉妹都市検討市民会議（平成28年10月26日開催）

⑤資料3：平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会報告書

⑥資料4：フォスターシティ市現地視察のメンバー等について

⑦参考資料：平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」

⑧参考資料2：交流事業の実施体制について（参考資料）

こちらは、傍聴される方がいらした場合も同じ資料をお配りします。過不足等はございませんでしょうか。

【次第1】前回のまとめ

委員長：それでは、議題に入る前に、次第1『前回のまとめ』について、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは次第1『前回のまとめ』について、私からご説明いたします。

〔資料2『平成28年度第2回海外姉妹都市検討市民会議（平成28年10月26日開催）』に基づき説明〕

委員長：ただ今、事務局より説明がありました。何かご質問のある方は挙手願います。

<挙手なし>

委員長：よろしいでしょうか。

<「はい」というご発言あり>

【議題1】交流事業について

委員長：続きまして、議題1『交流事業について』、事務局から説明をお願いします。

井田係長：それでは、資料3『平成28年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会 報告書』をご覧ください。こちらは、前回の市民会議でご報告いたしました作業部会の報告書になります。「4 結論」の部分をご覧くださいと、「海外姉妹都市の候補地はフォスターシティ市とし、スウォンジー市、ケアンズ市を次点とする。交流事業は、フォスターシティ市から希望や提案のある教育交流やスポーツ交流を中心に考える。また、海外姉妹都市提携後、（仮）交流協会を立ち上げて交流事業を実施するのが望ましい。」というのが作業部会の結論になっています。前回の市民会議では、この結論の中の『候補地』の部分についてご議論いただき、「市民会議としては、海外姉妹都市の候補地をフォスターシティ市に絞って、現地視察等を進めること」が決定されました。

本日は、この作業部会報告書の『候補地』以外の部分である、『交流事業』の部分と、『交流を実施する組織』について、ご議論をいただきたいと思います。

それでは、資料3の別紙2『フォスターシティ市との交流事例』をご覧ください。こちらは、前回もお配りしたものでございます。

〔別紙2『フォスターシティ市との交流事例』に基づき説明〕

なお、参考としてA3の資料『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』をお配りしています。こちらは、前回の会議でも配布したもののなのですが、昨年度の市民会議でゼロベースでご議論いただいた内容がまとめられておりまして、交流事業についてもゼロベースで様々なご意見をいただいています。

〔参考資料『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』に基づき説明〕

本日のご議論では、作業部会報告書とこちらの資料を参考に、「これは実現が難しい」ですとか、「まずはこの交流事業から始めるのが良い」ですとか、稲城市として、どのような交流をフォスターシティ市と実施するのが良いかを、ご議論いただければと思います。

後ほど、議題の3でご説明いたしますが、1月上旬には3人の委員さんにフォスターシティ市へ現地視察に行ってください。その視察の際に、本日いただいご意見を踏まえて、実際にどのような交流事業ができるのかを、現地の方と意見交換をしていただきながら、実現の可能性を確認をしていきたいと考えています。ご説明は以上となります。

委員 長：説明が終わりました。それでは、稲城市がフォスターシティ市とどのような交流をするのが良いか、また、視察の際に、「是非こういう交流について、話を聞いてきてほしい」など、ご意見をいただければと思います。ご意見のある方は挙手願います。

私が聞いたところによると、盆栽や日本庭園は海外ですごく人気があるようです。

副委員 長：芸術文化団体連合会では、姉妹都市の大空町とは、向こうに芸術文化団体連合会と同じような団体があることから、そこと連携をして交流をしています。具体的には、文化祭のときに行ったり来たりという交流をやっていきます。もし、フォスターシティ市にも芸術文化団体連合会のような組織があれば、そこを通じて交流を図っていけば、取っ掛かりとしては少し前に進むのかと考えています。

稲城市には、盆栽やお祭り、400年続く獅子舞など、向こうの方に見てもらうものが本当にたくさんあるので、その点ではあまり心配はしていません。

武藤部長：昨年夏にフォスターシティ市へ行ったときには、カルチャーセンターという市民が自主的に色々な文化活動をやっている施設を見させてもらいました。そこでは、例えば、陶芸が一番身近でやられているということで、実際に外にある窯で焼いたりしている様子を現地で見せていただきました。歴史は古くはない街ですが、お住まいの方たちで、現役を引退された後に、文化的活動をされる方もいらっしゃると思います。その他にも、カルチャーセンターの中で実施されている文化的な行事はあるということですが、詳細はお

聞きできていませんので、今度視察に行った際には、その辺のことも聞いていただければと思います。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：文化交流・教育交流からスタートしたら、交流し易くて良いと思います。文化交流というのは、向こうの方も一番興味のあることだと思いますし、私たちとしても日本の文化を紹介できるという意味でも、最初の交流の1つとして進め始めたら良いのではないかと思います。

また、あまり最初から色々なことをするのではなく、徐々に色々な交流へ広げて行けば良いと思います。

委員長：相手が求める交流が何かということもあります。フォスターシティ市の意向や、その他の交流事業の可能性を、副委員長を始め、視察で探って来ていただければと思います。それではよろしいでしょうか。

<「はい」というご発言あり>

【議題2】海外姉妹都市交流を実施する組織について

委員長：続きまして、議題2『海外姉妹都市交流を実施する組織について』、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは、別紙3『交流事業の実施体制について』をご覧ください。こちらは、前回もお配りしたものでございます。

[別紙3『交流事業の実施体制について』に基づき説明]

また、参考資料2『交流事業の実施体制について（参考資料）』をご覧ください。

[参考資料2『交流事業の実施体制について（参考資料）』に基づき説明]

なお、『(仮)交流協会についての考え方』という部分は、(仮)交流協会のイメージとしてこのようなことができる良いのではないかという形になっております。実際に立ち上げていく段階では、どのような事業を対象にするか、組織や運営手法はどうするかといった具体的な事項が出てまいります。そういった内容をこの場で決めるところまでは想定してございません。(仮)交流協会を立ち上げて実施することが望ましいのではないか、もしくは別のやり方がいいのか、という部分で、ご審議いただければと考えております。

また、(仮)交流協会を立ち上げる場合には、準備会的な委員会を組織して、来年度しっかりと時間をかけた議論を行っていくような手法が考えられます。その際には、本市民会議から継続して議論に参加していただける委員の方や、新たに(仮)交流協会の活動に熱意をもって取り組む意欲のある方を公募して、議論に加わっていただくような構成が考えられます。ご説明は以上となります。

委員長：(仮)交流協会について説明がありました。今回、海外姉妹都市ができるとなると、国内の大空町、相馬市、野沢温泉村に続き、4つ目の姉妹・友好都市ができるわけです。この

4つの町と、効果的に交流を実施するためには、交流事業に特化した組織を立ち上げることが重要だということだと思いますが、市民会議として、このような外部的な（仮）交流協会を立ち上げること、また、次年度に準備会的な委員会を組織して検討して行くということについて、皆様のご意見をいただければと思います。ご意見のある方は挙手願います。

委員：国際交流協会という点では、近隣の協会のほとんどは、国内と海外を分けて事業を実施しています。両方を一緒にやることに反対している訳ではないのですが、組織が大きくなり、それを束ねて統括するのは大変なことだろうと思います。とりあえず、国内の事業と、海外の事業については、別途にやっけて行くのが良いと思っていて、もちろん上手くいけば一緒にしても良いかと思えます。一般的に国際交流協会をやっているほとんどのところでは、姉妹都市関係の事業だけではなくて、在住外国人の語学や防災など、色々なものを含んでいます。そういったものをどうするかという、具体的な中身を詰めていかないといけません。とりあえずは、国際交流協会には「国際」という名前があるように、国内と国際とは分けて考えた方が良くと思います。

委員長：他にご意見ございますでしょうか。

委員：現在の国内の交流の実施方法はどうかになっているのでしょうか。

武藤部長：国内の交流につきましては、市の市民協働課が主体でやっていますが、NPO 法人サポートセンターいなぎに委託をしてやっけていただいている部分もあります。

委員：それを今度は交流協会の方に移すということでしょうか。

武藤部長：今も実際の交流の部分については、外部の組織にも入ってもらっていますので、その部分を海外と一緒にやっけて行くこともできるのではないかという考えの1つです。

委員：NPO 法人サポートセンターいなぎは、地域振興プラザの指定管理者を受けている関係で、施設管理並びに事業の委託をしていて、その中の1事業として、国内の姉妹都市・友好都市の事業もやっけています。具体的には、市民の利用に伴う旅館宿泊費の補助の事務をやっけています。ですから、向こうとの交流の人の行き来という分野には特に携わってはいません。

なお、市が稲城国際交流の会にお願いしている内容で、「稲城の国際交流」という事業の1事業についても、私どもで指定管理者として受けており、稲城国際交流の会との連携で事業をしているという関わりはあります。しかし、それ以外の分野につきましては、ご指摘の姉妹都市交流の促進に関する稲城全体としての組織は「ない」という風に理解した方が良くと思います。

柴田課長：先ほどご説明いたしました交流事業の実施体制の部分につきましては、こういう考え方がありますという部分でまとまっています。交流協会を立ち上げる場合には、どういった事業を、どういう組織でやっけて行くかというのは非常に大きな話になってきますので、立ち上げる場合の中身、どういう事業を、どういう組織・体制でやっけていくのかというのは、しっかりと準備会的な委員会を立ち上げて、時間をかけて話し合っていくのが良いのではないかと事務局では考えています。

委員：何らかの促進する組織を作ろうということだと思いますが、稲城市はそんなに大きな町ではないです。国内と海外を分けるというのも方法ですが、やはり国内にしる、海外にしる、姉妹都市・友好都市の交流部門として、組織は1つの方がパワーが付くという一面もある

と思います。正直言ってそんなに大きな町ではないですから、そういうパワーを付けるには、こういう形でまとまっていけないと厳しいのかなというのが1点です。

2点目は、「提携後は、協会を立ち上げて」となっていますが、提携後よりも提携に向けて盛り上がらないといけないのではないかと思います。スケジュール的なものが見えない状態ですが、1月に視察に行っていたら、阿吽の呼吸が取れば良いのですが、何年の何月頃に何らかの形を取ろうとか、どの段階でどのようなイベントをすとか、それに基づくためのタイムスケジュールに合わせる形で、こちら側でも何らかの組織を動かして行かないと、なかなか難しいかと思っています。

大空町、当時の女満別町との提携の時は、国内でしたので、行政も分野を決めて、交流事業を組んでいきましたが、今回、海外の場合にそこまでのことが財政措置を含めてできるのかどうかというのは分かりません。報告書の中で、できれば100人、200人で現地に行ってという話を書いてありますが、それができれば越したことはないのですが、費用も掛かる事ですから、5人、10人派遣するだけでも大変という現実も一方にはあります。協会立ち上げのタイミングについては、交流内容を盛り上げる意味でも、提携してから立ち上げるというような機運ではないのではないかという感じがします。

3点目は、これだけ市民から関心のある姉妹都市なので、「稲城がこういう都市と姉妹都市になったんだね、それでこんな事業をしているんだね」と、感心してもらえそうな事業、ヒットになるような事業はないかと、かねがね考えているのですが、なかなか良いものが見つけません。他市でもやっているという事例はたくさんあるのですが、稲城らしい、稲城の色々な資源を使った、市民から見ても「ああ、稲城市はそういうことを国際交流するんだ」と、自慢できるような、色々なことができる姉妹都市の事業にしたいと思います。これは願望です。

委員長：昨年、相馬市と野沢温泉村との友好都市の検討市民会議で委員長をやらせていただいたのですが、相馬市の野馬追や、野沢温泉村は、海外の方からすごく人気が高いです。ですから、稲城ばかりでなく、稲城を経由して、姉妹都市・友好都市に行けるようなことも考えられるかと思いました。向こうの市長さんも村長さんもすごく良い方なので、良くしてもらえんと思います。他に何かご意見ございますでしょうか。

委員：今回この交流協会を作ろうという話が、姉妹都市の話の中から出てきたので、その特徴が少し強く出ていると思うのですが、実際は、他都市の交流協会、国際交流協会を見ていると、そこの仕事の8割以上が実は内なる国際化の仕事になります。内なる国際化というのはそこに住んでいる外国人が色々難しい問題を抱えている、それに対してどうやって取り組んでいくかということで、それが主の仕事になっていて、外との交流事業というのは、少し発展した一部の活動としてあるわけです。実際、国際交流協会とか「国際」が付く場合には、一番大事な仕事と言うのは、今、稲城市に住んでいる1,000人を超える外国人の抱えている問題をどうやってサポートしていくかというのが主になってきます。その辺も含めた交流協会というイメージを考えないと、何か、外の都市とやり取りをすることが主で協会ができるというイメージだと、少し間違ってしまうと思いましたので、申し上げます。

委員長：他にありますか。

<意見なし>

委員長：それでは、市民会議としては、「(仮) 交流協会を立ち上げて、交流事業を実施していくのが望ましい。」ということで、詳細については、次年度に準備会的な委員会を組織して、しっかりと時間をかけて検討を進めるということで行きたいと思いますが、いかがでしょうか。

<意見なし>

委員長：それでは、進めて行くということで決定をしたいと思います。

<「異議なし」の声あり>

【議題3】現地視察について

委員長：続きまして、議題3『現地視察について』、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：それでは、資料4『フォスターシティ市現地視察のメンバー等について』をご覧ください。

フォスターシティ市への現地視察については、前回の市民会議にて参加者3人ないし4人について自薦他薦をいただきましたが、参加者の決定に至りませんでしたので、後日、事務局において、委員長にご相談させていただきながら、調整させていただくこととなっております。

そのため、欠席されていた委員の方のご意向の確認も含め、全委員の方にお電話などによりご確認をさせていただき、委員長に了解をいただきました内容が資料の通りとなります。

〔資料4『フォスターシティ市現地視察のメンバー等について』に基づき説明〕

日程や、細かい視察スケジュールなどは、まだ先方と調整中であるため、未定の部分が多くなっていますが、概略としては、このような形となっております。

委員長：ただ今、事務局より説明がありました。何かご質問のある方は挙手願います。

<質問なし>

【議題4】その他

委員長：それでは、議題4「その他」について、事務局より説明をお願いします。

井田係長：次回、第4回の市民会議は、現地視察が行われた後、1月中旬での開催を考えています。議題としましては、現地視察の報告等を予定しています。

<日程調整>

それでは、1月18日(水)夜7時からの開催として予定をさせていただきます。正式な通知は、後日、改めてお送りさせていただきます。なお、ご都合がつかなくなった場合などは、事務局まで、お電話でご連絡をいただければと思います。よろしく願いいたし

ます。

委員 長：最後に何かご連絡やご質問のある方はいらっしゃいますか。

委員：姉妹都市の検討は、既に何か交流があって、それを基にして姉妹都市に発展するのが普通ですが、今回はそうではなく、お見合い結婚のように、向こうに紹介する人がいて、お互い知らないけれど、これから良く知ることになりましょうという形で進んできています。決してこれが悪いとは思いませんが、少しそういう体があります。

ここで少し感じたことは、向こうからどなたも稲城に見えていないということです。こちらからは、昨年市長が行かれて、今回は市民会議がミッションで行きます。向こうの方に、稲城というものを正しく理解して、稲城とはこういう特徴の良い所ですということをよく知ってもらうことも必要と思います。

視察は、非常に短く、実際2泊3日もない、2日くらいの予定なので大変ですが、何か向こうの方が稲城市をある程度イメージができて、そして、「こんな素晴らしい所だったら是非やってみたい」と思ってもらえるような資料を準備していけると、今回の視察はとても良くなるのではないかと思います。

副委員 長：ただいま委員が仰ったようなことは私も考えていまして、例えば交流会のときにパソコン等でプレゼンテーションをして、獅子舞や稲城太鼓、華道や茶道の場面とか、いわゆる稲城が非常に自信を持っている所をプレゼンしてみたいと思っています。視察のメンバーについては今日決定いたしましたので、パソコンを実際に持っていった方が良いのか、USBで対応できるのか、その辺も含めてこれから事務局と打ち合わせを進めて行きたいと思っています。

良い知恵がございましたら、どんどん教えていただけるとありがたいと思います。

委員：せっかくの機会ですから、何か観光的な視点を含めて、短くても良いので、稲城の風景を含めて映像資料があった方が良いでしょうね。

武藤部長：前回我々が行ったときにも、映像で何かということは考えていたのですが、役所の中で映像化ができる部署がないため、紙ベースではありますが、市で作った簡単な観光総合冊子るるぶの英訳したものを持って行きました。今は、映像も徐々に作り始めていまして、例えば職員募集のPRビデオや消防士のPRビデオですとか、そういうものもできていて、ノウハウも貯まっていますので、有志で作れないか考えてみたいと思います。

委員：スライドショーでも良いと思います。

委員 長：意外と喜ばれたのが、稲城青年会議所で作った『稲城かるた』です。

武藤部長：残数がほとんどないと聞いていますが。

委員：ここで復刻をします。

委員：近いうちに向こうからどなたかに来ていただき、稲城を実際に見てもらえば、理解が均衡してきて、もっと実質的な議論が進んでいくのではないかと思います。

武藤部長：前回フォスターシティ市に行った時は、向こうからも「是非、稲城に行きたい」という話がありました。あの頃は去年の夏でしたので、「次に桜の咲く頃には行きたいですね」というお話でした。向こうからもご希望のある話ですので、その辺も是非、こちらから行ったときにアピールをし、実現に結び付けて行きたいと考えています。

委員：やはりビデオが良いと思います。かつて稲城国際交流の会が稲城県に行った時にも、稲城

の紹介を映写したところ、大変喜ばれました。

委員：今回、交流を期待される分野は教育・スポーツ分野ですから、もし映像を用意するようであれば、是非、稲城の教育やスポーツの様子を入れて、「ああ、これならこういう交流をやらう」という気持ちにさせることができるよう、向こうにアピールしていただきたいと思います。

委員：今回、視察に行かせていただくことになったのですが、質問が3つあります。1つは今出たのですが、稲城のプレゼンは絶対に必要だということです。これは、動画でなくてもスライド形式でも良いです。要はビジュアルで訴えるもの、稲城市とはこういう所だということが、知らない人が見て一発で分かるもので、シンプルなものが良いです。ごちゃごちゃ書いても読めませんし、見ませんし、逆に目立たなくなってしまう。

もう1つは、委員の皆様方は、組織から推薦された代表者なのですから、それぞれご自身の出身母体の中で、こういう交流について、「やりたい」或いは「聞きたい」ということがあったら、3つくらいに絞って挙げていただきたいと思います。また、事務局の方でも挙げていただいても良いです。それを文化交流であったり、スポーツであったり、その他のものなど、カテゴリーを絞って、それを箇条書きにし、英語に訳して、事前に向こうに送ってください。視察に行ったときに初めて話すようでは駄目です。時間がないですから。ですから、事前に英文に訳してメールで向こうに送って、「こういう理由で何名の人間が打合せに行く。この内容について伺うので、全部回答をくれなくても良いから、分かる範囲で回答して欲しい」と、そういう風に言えば、ある程度、話も詰まってきます。行ってきただけで、成果がないという視察ではいけないので。

それから、事務局にお願いなのですが、視察参加者には、コミッティメンバーとしての名刺を用意して欲しいと思います。個人の名刺では、会社も別々ですので、相手から「何しに来たんだ」と思われてしまいます。稲城市の姉妹都市を結ぶコミッティメンバーだという名刺があれば、相手も受けてくれます。役職については、代表者の方はチェアマンなどと付けていただき、我々は普通のコミッティメンバーでよいです。メールアドレスや住所は市役所の中でも良いと思います。

このような、最低限のツール関係を整備していただければ、2泊3日の視察でもかなりの成果は得られるのではないかと考えています。

委員長：他にいかがでしょうか。

<意見なし>

委員長：それでは、これで第3回稲城市海外姉妹都市検討市民会議を終了いたします。